

<人吉球磨／農林水産団体>

日 時：令和2年10月15日（木）10時00分～11時

会 場：球磨地域振興局 2階 大会議室

参加者：11名

【発言者①（球磨地域農業協同組合①）】

おはようございます。知事にも大変お世話になります。

ちょうど3か月半が経ったかと思えます。

先週、中神地区、そして、大柿地区を回ってきましたけれども、農地がそのままにされておりました、草茫々の状態であります。結構悩み続けて、心配じゃないかというふうに思いますし、また、生活をどうすればいいかと、不安視されていると思います。早く復旧をしていただきたいというふうに思います。

また、今回の水害につきましては、水害があつてから、被災地を回りましたが、多くの方から本当に怖い目にあつた、もうここには住みたくないというような声を多く聞きました。

住民の皆様、心配をされております。そのなかで今回、ダムがあつた場合のシミュレーションが出ておりますけれども、私としてはある意味で進めていきたいと思えます。

非常に農家の皆さんも心配しておられますし、遊水地の話もありますけれどもこれにつきましては球磨川地域は非常に水田の減少などもありますし、地権者の理解も得られないんじゃないかなと思っております。

できますれば、ダムと同時に球磨川流域の整備をしていただき、住民の皆さんが安心して生活できるような環境を作っていただければと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

【発言者②（球磨地域農業協同組合②）】

J A球磨の〇〇と申します。お世話になります。

私は、7月4日の災害の当日から、下球磨に入りまして、1か月間J Aの連合会の職員さん、あるいは県下J Aの職員さん、50名体制で、農地の復興に、ハウスの撤去作業に、約1か月半をかけて50何棟のハウスの撤去をいたしました。

その中で、農家の皆さん、農地の被害はもとより、家屋の被害が非常に大きいということで、農業の復旧を、目途が立たないと、それと同時に、皆さんが口を揃えて言われるのは、またこういった災害があるところに家を建てるかどうかも含めて検討をしなければならぬというような声が非常に多うございま

した。

そのなかで、やはり治水という目的であればダムを作っただいて、4割、5割の水位が低下すれば、安心してまた、今一度そこで建物を建てて、農業にしっかりと取り組もうという気持ちになれるんじゃないかなというふうに思っております。

ぜひ、治水目的のダムということで、私はそういうふうに考えておりますので、どうかよろしく申し上げます。以上です。

【発言者③（熊本県たばこ耕作組合）】

おはようございます。たばこ耕作組合の〇〇でございます。

私の方はたばこ関係の方で、たばこの被害、約3億を超えまして若干、皆さん方の収入が1年間本当に生活できるだろうかっていうようなことで心配しているところでございます。

ただ、最初の援助金等もございまして、それをあわせまして、全損の方につきましては、約半分ぐらいしかない、1年間の収入についてはですね。

そういったことで、1年間、大変な苦労をされるなというようなことで、心配をしているところでございます。

たばこの方は、上球磨の方から下球磨の方まで、幅広く栽培しておりまして、ただ単純に浸水被害があった、それから土砂の流出、それから堆積とかいうことで土地が使えないというような状態もあります。150ヘクタールぐらいの被害がありました中で、全損被害としまして、160町弱ぐらいの全損被害でございます。

そういったことで、幸い人的被害がありませんで、ただ、若干家屋の浸水によりまして、片付ける時にけがをしたと、骨折をしたというようなことはございましたけれども、これ幸いだったというふうに思っているところでございます。

先ほどから話があっというように、今後本当に市房ダムの方は人工的に操作ができると、川辺川の方は、自然の状態が、状態でございますが、やはり同じ人工的に操作できるならば、もう一方の川辺川の方も操作ができるようなダムを建設していただきたいです。

それからもう一つ、できますれば先ほど話もありましたように、遊水地ということでございますけれども、これは本当に住民の地権者の話、これは本当に皆さん賛成するかと、これは到底無理な話ではないかと思っておりますで、できればやはりダムの建設、そして今回被害を受けた復旧・復興を早くしていただきたい。JTの方にも、1年間の（聞き取れず）、そう長くは待てないという話も若干あっておりますで、来年までは、来年は元に戻して、約束はしてあり

ますが、それは3年、5年ぐらい、ちょっとお願いしたいと。代替地につきましても、なかなか難しい問題もございまして、作量の問題とか、もともと作っている方が、何と言いますか、その中に巻き込んでいくようなこととございしますので、たばこ葉の場合は土地生産性型の作物でございしますので、面積を広く要します。そういうことを重ねて災害を受けた土地の方をよろしくお願い申し上げたいと思います。

【発言者④（球磨畜産農業協同組合）】

球磨畜産農業協同組合の〇〇でございます。

私どもの組合の中で、今回の7月7日の豪雨災害におきましては、17の組合員さんのところで住宅被害、又、牛等の水死、また牛舎の浸水等も発生しております。

牛が人吉と球磨村ではもう住宅被害も含めて水死でございました。併せて7頭、1頭につきましては当日生まれたばかりの仔牛もおりまして、非常に悲惨な状況でございました。

あと購買者のところの農家の方々のところにも、やはり床上、床下の水害が発生をしています。直ちに職員とともに被害状況を調べた結果でございます。

今後、説明会の報告もございましたけれども、川辺川ダムの建設も含め、そしてまた、それぞれの支流の治水対策も非常に重要な役割を担うんじゃないかなというふうに思っております。

私も林業の営林もしておりますけれども、全部拡大造林をした伐期の山がこの人吉球磨には相当な面積を抱えております。

間伐等も、また減伐等も進んでおりますけれども、急峻な山々が多いこと自体が、大きな短時間で流量が発生したのではないかなというふうには思っているところでございます。

また、球磨川沿い、川辺川沿いには優良農地がございましてけれども、後継者、担い手の方が、やる気と農業経営を意欲を持ってできるような治水対策をしなければ、優良農地が、いわゆる山間地での耕作放棄地も考えられる状況になるのではないかなというふうに危惧もしております。

今後この球磨地域は、やはり農業、牛また畜産を主体とした農業経営の地域だというふうに思っております。林業も含めてです。

そういったことを踏まえて様々な治水対策を講じていただければ大変ありがたいなというふうに思っております。

以上でございます。

【発言者⑤（球磨酪農業協同組合）】

球磨酪農業協同組合の〇〇です。よろしくお願いします。

今回の7月の豪雨で、球磨酪農の組合関係では、今回の水害で人命に関わるような被害はありませんでした。

しかし、住宅の浸水、牛舎の浸水、飼料の流出、田畑の浸水被害など、多数発生しております。

そのような中、知事におかれましては、今回の豪雨災害の検証結果を受けて治水における方向性を年内の早い時期に示すと言われておりますが、知事になられたときには、ダムに頼らない治水を目指すということでした、しかし当時と比べまして自然環境は年を追うごとに悪化し、毎年日本のどこかで災害が起きております。

今回、芦北から人吉、球磨地方に線状降水帯が発生し、今までに経験したことのないような雨を降らせました。

気象庁は50年に1度とか、100年に1度の雨と言っておりますが、気象状況次第では毎年でもこのような災害が起こり得ると思われれます。国土交通省の検証では、川辺川ダムができていたならば浸水被害は6割は減らせただろうといわれております。

民主党政権になったとき、川辺川ダム同様、事業仕分けで建設が止まりました群馬県のハツ場ダムは昨年建設が終了し、昨年関東地方を襲った台風19号の際は被害を減少する効果があったとされております。

川辺川にダムの建設を考えるのであれば、当初計画されていた頃より離農者も増え、農家の状況も変わっていることから、当初計画の多目的ダムから自然環境にも配慮した流水型の穴あきダムを検討いただき、ダムを治水の柱として、支流の防災対策にも万全を期していただきたいと思っております。

私は治水なくして復旧復興はないと思っておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。以上です。

【発言者⑥（人吉球磨地域土地改良区連絡協議会）】

お世話になります。八つの組織で運営しております人吉球磨土地改良区連絡協議会の〇〇です。よろしくお願いします。

今回の災害は、人吉を含めた下球磨地域に被害が集中しております。人吉で大体収穫ゼロの面積が約70町、錦町で約30町、球磨村、山江村、相良村については詳しくは見ておりませんが、これらを含めると人吉球磨全体で約200町ほど収穫皆無の水田が発生しておるんだらうと思っております。

是非、農家のために来年の田植えに間に合うように、御努力をお願いしたいと思っております。

ところで今日は治水に対する案を伺いたいということでございますので、土

地改良区として考えられる治水案を考えてみましたが、先にもありましたこの遊水地案、これは非常に農家の心を踏みにじるような案でございます。

到底、農家として理解を得られる案ではないと私は思います。ましてや、現在の球磨川、川辺川の流域の水田を4mも5mも掘り下げるなど、とても机上の空論で、農家の理解を得られるものではありませんので、強く言っておきたいと思えます。

私たちが取り組める、考えられる方策として考えられるのが水田の畔のかさ上げ、現在大雨が降って水田が貯水能力、10センチ、15センチ、深い所で20センチぐらい、その程度だと思えます。それでも、その水田の貯水能力がなかったならば、人吉の水田はものすごい、まだ上がっていったものだと思います。

私の友人が言ったことですが、全国の田んぼの畔をブロックかコンクリートであと20センチぐらい上げてやれば、ダムの一つや二つの効果ではなく、もっと大きな効果が出るんじゃないだろうかという話をしたことがあります。

まだ、農家にすればブロックとかコンクリートの畔は、非常に迷惑するんです。機械が際までいかない。そこまで作業ができないと草が生える。非常に機会にとっても困る。草が生えないというのは非常にいいことのように思えますけれども、作業するにあたっては非常にやりにくいものです。

次に、例えばゴムのようなタイヤのようなもので、20センチ、30センチあげる、そういったことも考えられる。

それと、あと一つは現在の土壌をもう少し30センチばかりあげる。ただこれも土手が大きくなれば大きくなるほど農家の作業負担があります。雑草含めたですね。

それらを解決できるのならば、この土地改良区として水田が治水に貢献するんじゃないだろうかというように思えます、これこそが水田のもつ多面的機能の向上の本当の一つ、重要な一つになると思えます。

それから治水案、これはもう突拍子な話になりますけれども、人吉球磨の出口というのは球磨村に集中しているんですね。その水をどうにかしない限り、また今回のようなことがあると思えます。

突拍子のない話です。球磨村に入る前に、肥後トンネルみたいな排水路を芦北側と八代海側に2本、そういったトンネルができないものか、といったことを思っております。以上です。

【発言者⑦（人吉球磨地域土地改良区連絡協議会）】

今回の球磨川大規模洪水において、非常に甚大な被害を受けたわけでございまして、私、人吉土地改良区の〇〇をしておりますけれども、その組合員の方、

夫婦で亡くなられております。

先ほど説明のなかに、生命と財産を守るのが行政の仕事ということがありません。

私も、ずっと川辺川ダム会議あたりにも参加して、農地に水は必要です。

しかし、余計な水はいりません。計画的に使える水が必要なんだということで、ずっとこうやってきました。

私が中学校3年のときに昭和40年の水害がありまして、人吉市内の繁華街、九日町通りを畳やら衣類やら、生活用品が流れていくのを見ました。

必ずこれ以上の水害が起きることがあるんだろうと思っておりまして、それが今実現した訳でございまして、本当に早い対策をとってほしいなど、そういうふうに思っておるわけでございます。

知事に対しては、ダムでは全ては防げないかもしれませんが、やはり一番効果があるという先ほどの説明もございましたので、早急にダムの建設をし、また他の対応策を取っていただいて、できるだけ住民の命と財産を守っていくようにしていただきたいと思っております。

先ほどもありまして、田んぼも農家にとってみれば財産です。これを勝手に扱う、計画していくというのは非常に問題じゃなかろうかなと。絶対農家の同意は得られないと思っておるわけでございます。

それと土地改良区の施設、昔から江戸時代、その以前から、建設されて造られている施設でございますけれども、非常に老朽化したうえに今回の災害で甚大な被害も受けております。

また、それを管理する農業者、非常に高齢化もして、危険性も高まっております。

こういう施設を改良していただくときには、本当に現代的な安全性を備えた労力のあまりかからないような改修をぜひお願いしたいと思っております。

それと、農業者も高齢化しております。80前後の人、私ももう70を超えました。

それでもまだバリバリやろうと思っております。

しかしながら、これが5年も10年も復旧が長引くことがあれば、果たしてその農業再開する意思が続くのかどうか、非常に不安でございます。

集落営農等も立ち上げられないような地域もございまして、早急に来年の田植え、少しでも飯米だけでも作れるような、そういう対策を是非とっていただきたいと思っております。

私たち土地改良区としても、やはり組合員の農業を支援するのが、一番の目的でございます。

早急に施設を改良、改修して、安心して田んぼ、稲作ができるような水を届

ける使命を早く実現したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【発言者⑧（球磨地方森林組合連絡協議会）】

おはようございます。球磨地方森林組合連絡協議会の〇〇でございます。よろしくお願いいたします。

林業といいますのは、球磨地域の重要な基幹産業でございます。森林資源、更には仕事量も大変多ございます。雇用の受け皿としまして、地元の期待感も大変大きいと自負しておりますのでございます。

今後も適切な森林整備に努めてまいりたいと考えておりますが、持続可能な林業経営を実施していくうえで、皆伐後の再生林や間伐、作業等への国・県の補助、県の嵩上げをお願いしたいというふうに思っております。

また、林道につきましては、舗装されていることで、災害に強く、早期復旧が容易であるということが分かってまいりまして、つきましては新規路線、既存路線を問わず、林道の舗装につきましても、必要性をご理解いただき、一層の促進をお願いしたいと考えております。

特にコンクリート舗装は、アスファルトに対しまして大変水に強いので、全てとは申しませんが、谷部や流水等があるところに積極的に使っていただくことが望ましいと考えておりますので、よろしくお願いいたしますと思っております。

森林組合は、間伐や皆伐後の再生林など森林整備を計画的に行うことで、健全な森造りに貢献してまいっております。

しかしながら、今回の豪雨は、森林が持つ土砂災害防止機能を超える勢いで雨が降り注いでいまして、多くの山腹崩壊を招いております。

県には治山の谷止工設置などを含めまして、一刻も早い被災森林の復旧を切にお願いしたいと思っております。以上です。

【発言者⑨（球磨地方森林組合連絡協議会）】

おはようございます。球磨地方森林組合連絡協議会の〇〇です。

7月豪雨後、蒲島知事はじめ熊本県の関係者の方々には大変お世話になりました。いろいろな物資をまた御助成をいただいているところでございます。深く感謝申し上げます。

当組合では、組合の柱であります林業、木材を伐採する。その伐採した木を製材所で付加価値を高めて市場に流すというのが我々の仕事になるわけでございますけれども、その一つでございます製材加工施設が甚大な被害を受けまして、今、従業員はすべて休むか、県あたりから仕事をいただいて災害関連の仕事とか、そういうのをさせていただいております。

何とかそれで凌いでいるわけでございますけれども、本来の仕事に早く戻り

たいということは従業員全てが思っている状況でございます。

一方、球磨村で唯一の観光施設がございます。

球泉洞が背後からの土石流によりまして、壊滅的な打撃を受けたということで、今、土砂等の撤去が終わり、何とか再開に向けて努力しているところでございますけれども、しかし、復旧の目途が立たないということでございますので、球泉洞の従業員は一時解雇ということを余儀なくされました。

我々にとっても、涙の出るような辛い選択ではございましたけれども、それに応えるためには、一日も早い復興、復旧が一番だと思いますので、今後も県の皆様方の指導を仰ぎながら、精一杯努力をしまいたいというふうに思います。

一方の、そういう補助事業等を使いまして、復旧・復興の事業をするということになりますと、製材所があるのが川内川という支流になるんですけど、それはほとんど村道は寸断された状態でございますして、今は国交省が直接工事に当たっているわけです。

そういう事業をやる中で、事業を製材工場の復旧・復興をやるために生業の御支援事業とか、また林野庁の補助事業等を使いながらやったらどうだという県の指導もございますが、それに沿って仕事をしていきたいということにしておりますけれども、まずは国の事業も単年度ということでございますので、なかなか例えば3億も4億もかかる事業を1年間でやるというのは、片方では道路の復旧、河川の改修も始まりながら、その同じ個所を仕事をするということが大変難しいと思います。

なんとか複数年にわたって復旧事業ができるよう、県からも強く要望をしていただければというふうに思います。

治水の話が先ほどから出ております。私も、ダムによっても遊水地を作っても非常に多くの方々に迷惑をかけるというのは承知をしております。

で、先ほど話がありました、やはり球磨川の水は上流の水が全部球磨村にきて、そして芦北、八代の坂本を通過して八代海に出るという致し方ない、そういう地形になっておりますけれども、私もできれば、私が村会議員をやっていたときに30年、40年前にも話がありました。

やはり球磨川の水を他所に流す。バイパス工事をやったらどうだという国交省の意見もありましたので、それも一つの案かなというふうに思います。

蒲島知事も今から熊本県民にこれを説明していかなければならない立場でありますので、無理なことばかりを我々も言われませんので、一つずつ、少しずつ前に進んでいければそれでもいいのかなという感じがいたします。

どうぞ、よろしく願いいたします。

【発言者⑩（人吉球磨木材協会・球磨川漁業協同組合）】

おはようございます。私は人吉球磨木材協会の代表として、半面、球磨川漁業の代表として、非常に発言も慎重にしくちやいけないという立場であります。

まずは、林業関係の先ほどからお話が出ているように、非常に補助対象にしていたかなければ厳しいという話が出ておりますが、私の方は現在、山がどうなったか、ちょっと述べていきたいと思いますが、ご承知のとおり、山には林道・作業道が走っております。

山腹崩壊に伴い、あるいは川の出水に伴い、多くの土砂が流失しておりまして被害を受けております。

また搬出用の木材を搬出するための道路でございますが、これがなくなっておりますので市場の方に出荷できない。経済的に大変厳しい状況になっておることをご理解いただきたいと思っております。

また今回、村道、県道、あるいは林道が崩壊したことによりまして、孤立した集落が大変多うございました。

そういう中、作業道というものは非常に役立ちまして、即座に啓開しましたところ、2日3日で孤立は解消したという事例もございますので、大変林道とこういう作業道というのは貴重な道路と思っております。是非、これの復旧につきまして、早急に対応をお願いしたいと思っております。

また、森林は緑のダムという話もございますが、今の山の状況を見ますと、保水能力はほぼもうなくなっているんじゃないかと思っております。

下木が育ってどうのこうのということもありますが、あれだけの雨量を溜めるということは不可能でございますので、何らかの治水対策は必要かと思っております。

また次に、球磨川漁協としての発言でございますが、私たちの組合員も相当被災をされております。

家をなくされた方、あるいは死亡された方ということで、甚大な被害を受けておりますが、直接の要望というものは漁協としてはありません。

ただ報告といたしまして、一番大事な組合員さんの船、魚を得るための船が263艘保有しておられます。その中で、170艇が流失、破壊されております。非常に漁をするにも、できないという状況であります。

また、今現在組合員が約1000名でございますが、非常に減少が進んでおりまして、漁業そのものの存続も不安視しておるところでございます。

また、7月4日以降、川の状況、あるいは魚の状況ということで、10月10日前後に生物調査を行いました。

4回までやりまして、ほぼ魚がない。または小さくて商品価値がないとい

うような状況であります。数的には若干漁はするような数はおりました。

しかし、ほぼ川を下っているんじゃないかと思っております。

今年は128万尾の放流を行ないましたが、中間育成等で育った、要するに養殖魚は、DNAの関係で逃げ場を知らないんじゃないかと思っております。

残り128万尾のなかの28万尾は遡上アユでございまして、今残っているのはアユが逃げ場を体で覚えて逃げた数じゃないかと思っております。非常に少ない数になっております。

まだ私もこの川辺川流域70年以上住んでおりますが、今回のような出水というのは初めて体験いたしました。

後に、河床をいじりますと非常に大きな土砂が大量に流出、蓄積しております。

川底が上がっておりますので、これは一度ちょっとした大雨が来ますと、このような同じような災害が発生するんじゃないかと思っておりますので、この土砂流出はどこから来ているのか、そういうのも確認されまして、治水対策をお願いしたいと思います。

私たち球磨川漁協は川とは直接関わっておりますので、ここで治水対策についてどうのこうのということは触れませんので、後日またいろいろ皆さんと組合員さんと協議をして、いい方法を選択していきたいと思っております。

いずれにせよ、球磨川、川辺川には異常な状態の河床になっているということを報告申し上げておきます。よろしく願いいたします。

(以 上)